

## トピック①

# 福島の高校生、フラダンスでアピール in 「さよなら原発アクション」

去る3月8日、福島第一原発事故から4年目を前に、高崎市の城址公園で「力あわせる200万群馬・さよなら原発アクション」が開催された。アトラクションの中で、避難生活を余儀なくされている福島県立いわき総合高校の生徒たちが、フラダンスを披露した。



舞台上に立ったのは、いわき高校のフラダンスサークル「アロヒ・ミノ・アカ」（ハワイ語で輝く笑顔）の女子生徒5人で、映画「アラジン」の「ホールニューワールド」など3曲に合わせて踊り、会場から大きな拍手と声援を受けた。

5人は全員が1年生。フラダンスは、高校入学後「体験会」に参加して楽しかったので始めたという。現在は、フラガール甲子園を目指して、毎日2時間半自主練習しているほか、週に一度は「スパリゾートハワイアンズ」のダンス経験者から指導を受けている。

インタビューで震災当時のことを聞かれて、涙ながらに語ってくれた。

鈴木萌さんは、東日本大震災当時、大熊町立大野小学校6年生で下校途中に激しい揺れに襲われた。原発事故に追われるように、会津若松市まで両親と避難し、高校進学を機に

いわき市に移り住んだ。同級生や親戚は県外移住するなど離ればなれになり寂しさも感じるが、「今は周りの友だちがすごくいい人たちなので、私も頑張れる」と笑顔を見せた。

住吉雛乃さんは、震災の翌朝、バンという（原発の）爆音とともに逃げ出した。「地震直後は単身赴任の父と会えず不安な毎日だった。避難所ではお風呂も入れず、トイレに行くのも苦労だった。もう二度と事故は起きてほしくない。」と体験を語ってくれた。

5人の生徒はそれぞれに、「原発反対という集会に出るのは、最初抵抗がありましたが、大勢の人に見てもらえたのでとてもいい機会だった」「緊張もしたけれど、会場の皆さんの笑顔とかけ声で、頑張ってた踊れました」「こういう集会をやったたくさんのことを学べてよかった。一番は、皆さんのかけ声で一体化した感じで楽しくやれたこと」と感想を述べ、「多くの方が今も避難生活を続けていることを忘れないでほしい。踊りを通して、福島を応援してくれる人や避難している人に元気を与えたい」と付け加えた。

《文責：瀧口典子》

